

病虫害発生予報 第 1 号
(向こう 1 か月間の発生予報)

I 総括表

作物名	病虫害名	地域	発生量	発生時期	摘要
麦	赤かび病	全域	並～やや多	並	
	さび病・うどんこ病	全域	並	並	
水 稲	苗立枯病	全域	並～やや多	並	
	ばか苗病	全域	並	並	
	細菌性病害（もみ枯細菌病及び苗立枯細菌病）	全域	並～やや多	並	
りんご	赤星病	全域	並	並	
	うどんこ病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	腐らん病	全域	並	—	
	アブラムシ類	全域	並	並	
	キンモンホソガ	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	リンゴハダニ	全域	並～やや多	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
なし	赤星病	全域	並	並	
	黒星病	全域	並	並	
	黒斑病	全域	並	並	
	ハダニ類	全域	並	並	
	リンゴコカクモンハマキ	全域	並	並	
も も	せん孔細菌病	全域	並	並	
	縮葉病	全域	並	並	
	ナシヒメシンクイ	全域	並	並	
	コスカシバ	全域	並	並	
	モモハモグリガ	全域	並	並	
	カメムシ類	全域	並	並	

ぶ ど う	晩腐病	全域	並	並	
	黒とう病	全域	並	並	
	ブドウトラカミキリ	全域	並	並	
う め	かいよう病	全域	前年並	前年並	
	黒星病	全域	前年並	前年並	
施設果菜類	灰色かび病	全域	並	並	
施設きゅうり	うどんこ病	全域	並	並	
アブラナ科野菜	コナガ	全域	並	並～やや早	
レ タ ス 類	ナモグリバエ	全域	並	並	
アスパラガス	茎枯病	全域	並	並	
	ジュウシホシクビナガハムシ	全域	並	並～やや早	
た ま ね ぎ	べと病	全域	並	並	
野菜・花き類 全 般	アザミウマ類・アブラムシ類	全域	並	並～やや早	
	ハダニ類	全域	並	並～やや早	

II 向こう 1 か月の天候の見通し及び予報の根拠にかかる気象要因

1 向こう 1 か月の天候の見通し（気象庁 令和 7 年 4 月 17 日発表）

○関東甲信地方【4 月 19 日～5 月 18 日】
暖かい空気に覆われやすいため、向こう 1 か月の気温は高い見込み。
天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多い見込み。

○関東甲信地方 向こう 1 か月の平均気温、降水量、日照時間

区 分	見込み	予想される出現確率（％）		
		低い（少ない）	平年並	高い（多い）
平均気温	高い	10	30	60
降 水 量	平年並か少ない	40	40	20
日照時間	ほぼ平年並	30	30	40

2 予報の根拠にかかる気象要因

（＋）は発生を増加させる要因、（－）は発生を減少させる要因を示す。

Ⅲ 麦

1 赤かび病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並～やや多い** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
気象要因（＋）
向こう 1 か月の気温は、平年に比べ高いと予想されており、発生量は平年並～やや多いと予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①開花期に曇雨天が続くと多発しやすい。
- ②ハナチカラは、県内で作付けされている主要な品種間の比較では感受性が高いので、防除を徹底すること。
- ③重点的な防除時期は最も感染しやすい開花期である。防除適期を逃さないように注意する。
- ④開花期間中に、曇雨天が続くなど多発が予想される場合は、1 回目防除（開花期）から 10～14 日後に追加防除を行う。
- ⑤今後の気象情報に注意し、また農業関係試験場ホームページ「コムギ赤かび病予察システム」（<https://www.agries-nagano.jp/link>）を参考にする。

2 さび病・うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
越冬病原量は、平年並と予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①過繁茂、生育が進んでいるほ場では発生しやすい。
- ②「農作物病害虫・雑草防除基準」（以下「県防除基準」という。）を参照し薬剤を選択する。赤さび病は品種の抵抗性に応じて薬剤を選択し（「県防除基準」p81, 82 参照）、開花期に赤かび病と合わせて 1 回防除する。
- ③うどんこ病は、開花期の赤かび病、赤さび病防除によって被害を低減できるが、多発が予想される場合は止葉展開期にも薬剤散布を行う。
- ④その他のさび病は、発生初期及び出穂期を中心に防除を行う。

Ⅳ 水稻

1 苗立枯病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並～やや多い** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
気象要因（＋）
向こう 1 か月の気温は、平年に比べ高いと予想されており、発生量は平年並～やや多いと予想される。

(3) 防除上の留意点

- ①極端な高温や低温、過乾や過湿は苗立枯病の発生を助長するため、適切な温度管理、水管理に努める。
- ②ビシウム属菌による苗立枯病は、育苗初期の極端な低温により発生が助長される。また、育苗培土の適正な pH は 4.5～5.5 であるが、pH が高いほど本病の発生が助長されるので、自家で培土を調整する際には、適正範囲内になるように調整する。
- ③リゾープス属菌による苗立枯病は、出芽や緑化期の高温・過湿により発生が助長されるので留意する。

2 ばか苗病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
- ①近年における発生の主要因は、プロクロラズ剤耐性菌であることが明らかとなり、発生地域では防除効果の高い薬剤に変更された。
- ②前年の発生面積が平年並であったため、越年菌量は平年並と推察される。
- (3) 防除上の留意点
- ①購入した健全な種子を用い、種子消毒を必ず実施する。
- ②浸種時の液温が 15℃以上になると発生が助長されるため、液温管理には留意する。
- ③温湯消毒後の種子は汚染源（汚染された種子やわら等）との接触は避ける。
- ④苗で発生した場合は、抜き取りを徹底する。
- ⑤県内の複数地域でプロクロラズ剤耐性菌が確認されているため、スボルタック乳剤、スボルタックスターナ SE の使用は控える。また、ベノミル耐性菌が県内広域で確認されているため、該当成分を含有する薬剤の使用は控える。

3 細菌性病害（もみ枯細菌病及び苗立枯細菌病）

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並～やや多い** 発生時期： **平年並**
- (2) 予報の根拠
気象要因（＋）
向こう 1 か月の気温は、平年に比べ高いと予想されており、発生量は平年並～やや多いと予想される。
- (3) 防除上の留意
- ①30℃を越える高温により著しく発生は助長されるため、催芽・出芽温度は 28℃とする。この場合、32℃での催芽・出芽と比較して、出芽揃いまでおよそ 1 日遅くなる。
- ②育苗初期までは温度管理に留意し、30℃以上の高温に長時間遭遇させない。
- ③温水循環式催芽器を用いる場合、被害を増大させるおそれがあるので、温度管理に留意する。
- ④オキシソリニック酸耐性もみ枯細菌病菌の発生地域では、当面オキシソリニック酸を含有する薬剤（スターナ水和剤）の使用を控えて、代替剤を使用する。

V りんご

1 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬伝染源量は、平年並と予想される。
② りんごの生育はほぼ平年並であることから、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
① りんご園周辺で中間宿主であるビャクシン類が多いところでは、園内環境整備等に留意する。
② 小生子が飛散する開花期～落花 20 日頃が、重要な防除時期である。

2 うどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。
② りんごの生育はほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
① 被害病花そう（芽しゅ）は、せん除して土中に埋める。
② 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

3 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 全般に越冬伝染源量は、平年並と予想される。
② 須坂市（果樹試験場）でのリンゴ黒星病菌子のう胞子の初飛散は、4 月 1 日に確認され、平年と比べやや早かった。
③ りんごの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
① 薬剤耐性黒星病菌の定着・拡散を防止するため、「県防除基準」を参照し、薬剤を選定する。
② 展葉期～5 月下旬までの防除が重要であるので、防除間隔をあけすぎないように、降雨予報等を考慮して定期的に防除する。

4 腐らん病

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並**
(2) 予報の根拠
伝染源量は、平年並と予想される。

- (3) 防除上の留意点
① 枝腐らん病は、発芽期～展葉期にかけて発見しやすい。園内の点検に努め、早期発見・治療に努める。
② 病斑の削り取り後は、農薬登録のある塗布剤で必ず処理する。
③ 枝幹部にも薬剤が十分かかるように散布する。

5 アブラムシ類

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬量は、平年並と予想される。
② りんごの生育はほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
葉が巻いてからでは十分な防除効果が得られないため、発生初期に防除を行う。

6 キンモンホソガ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬世代成虫の発生量は、平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
① 発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、定期的に防除を行う（蚕に対する毒性に注意）。
② 前年に発生が多かった地域は、越冬密度が高いと予想されたため注意する。
③ 今後のフェロモントラップ調査による誘殺状況に注意を払う。

7 ナシヒメシンクイ

- (1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
① 越冬量は、平年並と予想される。
② 越冬世代成虫の発生時期は、平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
芯折れの被害がみられた場合は、切除して焼却する。

8 リンゴハダニ

- (1) 予報の内容 発生量：**並～やや多い** 発生時期：**平年並**
(2) 予報の根拠
巡回調査では、短果枝の越冬卵が東信地域、中信地域の一部で平年と比べやや多く観察されており、発生量は並～やや多いと予想される。
(3) 防除上の留意点
① 発生がみられる場合は、落花直後に殺ダニ剤を散布する必要があるが、休眠期にマシン油乳剤を散布していれば、通常この時期の防除は必要ない。
② 防除の際は、散布むらが生じないように注意して散布する。

9 リンゴコカクモンハマキ（ハマキムシ類）

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬幼虫量は、平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
①発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する（蚕に対する毒性に注意）。
②殺虫剤を使用する際は、訪花昆虫への影響が少ない薬剤を選ぶ。

Ⅵ なし

1 赤星病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は平年並であり、胞子の飛散時期も平年並と予想される。
②なしの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
生育に合わせて薬剤散布を行い、防除が遅れないように留意する。

2 黒星病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②なしの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
①生育に合わせて薬剤散布を行い、防除が遅れないように留意する。また、落花直後の防除との間隔をあげすぎないように留意する。
②春先は、展葉や枝の伸長が少なく、薬液が付着しにくいので、場合によっては手散布を行い、散布むらが無いようにする。また、受粉樹も防除する。

3 黒斑病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②なしの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
①特に重要な防除時期は、開花直前～袋掛け前までである。
②生育に合わせて薬剤散布を行い、防除が遅れないように留意する。また、防除間隔をあげすぎないようにする。

4 ハダニ類

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①リンゴハダニの越冬卵量及びナミハダニの越冬成虫量は、平年並と予想される。
②なしの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、殺ダニ剤を散布する。

5 リンゴコカクモンハマキ

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬幼虫量は平年並と予想される。
②なしの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
発生が多い場合は、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する（蚕に対する毒性に注意）。

Ⅶ もも（ネクタリンを除く）

1 せん孔細菌病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ももの生育は、ほぼ平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。
(3) 防除上の留意点
①第一次伝染源である春型枝病斑は、早ければ4月中旬には発生し始めるので、園内を点検し、見つけ次第必ずせん除し、埋没処分等を行う。なお、せん除する際は、発芽展葉している健全芽を2芽含めてせん除を行う。
②発生が多い園では、ボルドー液の散布が重要である。
③「県防除基準」を参照し、落花期以降に使用時期に注意して抗生物質剤を丁寧に散布する。なお、これらの剤は薬剤耐性菌出現の恐れがあるため、使用回数等に注意する。
④防風対策を行う。

2 縮葉病

- (1) 予報の内容 発生量： **平年並** 発生時期： **平年並**
(2) 予報の根拠
①越冬伝染源量は、平年並と予想される。
②ももの生育は、平年並であるため、発生時期は平年並と予想される。

3 ナシヒメシンクイ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬量は、平年並と予想される。

②越冬世代成虫の発生時期は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

芯折れの被害がみられたら、切除して焼却する。

4 コスカシバ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

越冬量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①幼虫の寄生がみられたら、虫孔から針金を差し込み刺殺することは有効である。

②発生の多い園地では、交信かく乱剤（スカシバコンL）を設置する。

5 モモハモグリガ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

①越冬成虫量は、平年並と予想される。

②越冬世代成虫の発生時期は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①越冬世代成虫は、4月中下旬頃から発生がみられるので、成虫の発生状況や幼虫の寄生状況に注意し、適期防除に努める。

②「県防除基準」を参照し、成虫発生初期に遅れないよう防除する（蚕に対する毒性に注意）。

6 カメモシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

落葉中の個体数調査の結果、越冬成虫量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

発生が多い場合は、「県防除基準」を参照して防除する。なお、剤によっては、5月に散布すると葉に葉害が生じることがあるので注意する。

VII ぶどう

1 晩腐病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

越冬伝染源量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

「県防除基準」を参照し、発芽直前から定期的に防除する。

2 黒とう病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

越冬伝染源量は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

①欧州系品種（シャインマスカット、クイーンルージュ[®]等）は、罹病性が高い。

②発芽前にデランフロアブルまたは石灰硫黄合剤により防除するとともに、展葉2～3枚頃の生育期から、「県防除基準」を参照して防除する。

3 ブドウトラカミキリ

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

越冬幼虫量は、平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

被害枝を見つけたら切除し、必ず焼却する。

IX う め

1 かいよう病

(1) 予報の内容 発生量：**前年並** 発生時期：**前年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、枝の越冬病斑数は前年並であった。

(3) 防除上の留意点

展葉初期から約1か月間が防除適期であるため、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

2 黒星病

(1) 予報の内容 発生量：**前年並** 発生時期：**前年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、枝の発病枝率は前年より少ないものの、発生は平年並と予想される。

(3) 防除上の留意点

4月下旬から5月中旬が防除適期であるため、「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

X 野菜全般

1 施設果菜類の灰色かび病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①昼夜の温度差が大きくなり、結露量が増えると発生しやすくなる。
 - ②施設内の換気を十分に行い、除湿を行う。除湿機の利用は、ハウス内の湿度上昇抑制にも有効である。
 - ③発病葉及び発病果は見つけ次第、除去する。
 - ④「県防除基準」を参照し、定期的に防除する。

2 施設きゅうりのうどんこ病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
- ①「県防除基準」を参照し、発病を認めたら直ちに防除する。
 - ②下葉で、発病したものは摘葉する。

3 アブラナ科野菜のコナガ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、発生はみられなかった。
 - ②フェロモントラップ調査による初誘殺は、塩尻市（野菜花き試験場）では平年と比べ遅れているが、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）では平年と比べやや早かった。
 - ③気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、発生時期は早まると予想される。
- (3) 防除上の留意点
「県防除基準」を参照し、育苗期後半（セル成型育苗）あるいは定植時に、殺虫剤（粒剤）を散布する。

4 レタス類のナモグリバエ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、寄生はみられなかった。
 - ②黄色粘着板によるトラップ調査では、小諸市（野菜花き試験場佐久支場）で、4月第1半旬まで誘殺されず、初誘殺の時期は平年と比べやや遅い。
 - ③気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、今後、発生時期は早まると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①苗床での防除を徹底する。
 - ②育苗施設では、黄色粘着シートを設置し、成虫の捕殺を図る。
 - ③「県防除基準」を参照し、防除する。

5 アスパラガス茎枯病

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並
- (2) 予報の根拠
巡回調査では、発生はみられなかった。
- (3) 防除上の留意点
前年の切り株に残存する病原菌が一次伝染源となり、降雨時の泥はね等により感染する。地表面の切り株が残らないよう除去し、敷きわら等によって泥はねを防ぐ。

6 アスパラガスのジュウシホシクビナガハムシ

- (1) 予報の内容 発生量：平年並 発生時期：平年並～やや早い
- (2) 予報の根拠
- ①巡回調査では、現在のところ寄生はみられていないが、例年山沿い等の一部のほ場では、萌芽期から寄生がみられている。
 - ②気象要因（＋）
向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、今後、発生時期は早まると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ①発生がみられた場合は、「県防除基準」を参照し、萌芽初期以降に防除する。
 - ②山沿いのほ場は発生しやすいので留意する。

7 タマネギベと病

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並**

(2) 予報の根拠

巡回調査では、発生はみられなかった。

(3) 防除上の留意点

①「県防除基準」を参照し、防除を行う。

②発病葉は二次伝染源となるので、早期に除去し、集めて土中に埋める。

8 野菜・花き類のアザミウマ類・アブラムシ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、現在のところ寄生はみられていない。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、今後、発生時期は早まると予想される。

(3) 防除上の留意点

発生がみられた場合は、「県防除基準」を参照し、多発する前に防除する。

9 野菜・花き類のハダニ類

(1) 予報の内容 発生量：**平年並** 発生時期：**平年並～やや早い**

(2) 予報の根拠

①巡回調査では、現在のところ寄生はみられていない。

②気象要因（＋）

向こう1か月の気象予報では、気温は高いと予想されており、今後、発生時期は早まると予想される。

(3) 防除上の留意点

①早期発見に努め、発生初期に防除する。

②「県防除基準」を参照し、防除する。